

<p style="text-align: center;">発行者名</p> <p>採択基準</p>	<p>東京書籍（新編 新しい道徳）</p>
<p>1 教科の目標からの配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各教材で自己に問いかける発問が用意されており、自己を見つめ直す学習ができるように配慮がなされている。 ・ 様々な人の意見に触れながら、広い視野で多面的・多角的に考え、コラム「Plus」で教材の補充が図れるよう配慮がなされている。 ・ 様々な人の生き方を描いた教材が用意され、生き方について考える発問から自身の生き方を深められるよう配慮がなされている。
<p>2 生徒の学習活動への配慮</p> <p>○内容の程度</p> <p>○学習活動への誘意性</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等</p> </div>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 重点項目として資料が複数扱われており、生徒の発達段階に即して適切な話題や題材が取り上げられるよう配慮がなされている。 (2) ポスターやグラフなどを用いて興味・関心を喚起し、道徳的価値の追求に結び付くよう工夫がなされている。 (3) 同一の登場人物が友情を深める成長に触れたり、「ぐっと深める」で自身の生き方を考えられたりする工夫がなされている。 (4) 「考えるためのツール」が巻末にあり、可視化された考えを客観視したり、友と比較したりできるよう配慮がなされている。 (5) 文字は一般的な書体より少し太いユニバーサルデザインフォントを使用し、生徒の発達段階に応じた配慮がなされている。 (6) カラーユニバーサルデザインへの配慮から、さし絵や写真、図表等は適切な大きさと配置する工夫がなされている。
<p>3 学習指導への配慮</p> <p>○単元・題材の配列</p> <p>○内容の扱い</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価</p> </div>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 各学年の内容項目を 35 教材で様々な題材に触れ、付録教材で補充深化の役割を果たせるように適切に配列され、道徳的価値を多様な形で学べるよう工夫がなされている。 (2) 学校行事や生徒の生活実態に基づいた教材がどの学年でも同一の時期に配置され、各校の全体計画に基づいた年間指導計画が効果的に作成できるよう配慮がなされている。 (3) 全学年で「いじめ」や「いのち」について、それぞれ3つの教材を組み合わせたユニットを構成し、多面的・多角的に考えを深めていけるよう配慮がなされている。 (4) 読み物教材に加え、写真やさし絵、ポスターなどの視覚から考える教材だけではなく、状況に応じて動画を用いての授業ができるよう工夫がなされている。 (5) 巻末の自己の学びを振り返る用紙と各教材の脚注の「つぶやき」の欄から、生徒が自分自身の学びを実感したり、教師が生徒の成長を把握したりする工夫がなされている。
<p>4 全体的な特色</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全教材に生徒のつぶやき書き込める枠と漫画や挿絵を大胆に配置したりして、物事を多面的・多角的に考えられるように工夫がなされている。 ・ 題材の葛藤場面において活用できる心情円が巻末に付いており、言葉では表現しにくい自分の気持ちを割合で表すことのできるよう、工夫がなされている。

<p style="text-align: center;">発行者名</p> <p>採択基準</p>	<p>教育出版（中学道徳 とびだそう未来へ）</p>
<p>1 教科の目標からの配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各内容項目の教材が生徒の実態と関連するように配置されており、生徒自身が自己を見つめられるよう工夫がなされている。 ・ 思考ツールや動作化、役割演技など、物事を広い視野から多面的・多角的に考えられる工夫がなされている。 ・ 教材末の「学びの道しるべ」では、生徒が人間としての生き方について考えを深められるような工夫がなされている。
<p>2 生徒の学習活動への配慮</p> <p>○内容の程度</p> <p>○学習活動への誘意性</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等</p> </div>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 各学年の第1教材では、発達の段階や生活実態に応じるような道徳的価値の説明が位置付く配慮がなされている。 (2) 教材冒頭右下「導入の問い」で、生徒の日常生活や同様の場面と道徳的価値の追求とが結び付く工夫がなされている。 (3) 教材末の「学びの道しるべ」の三つの問いによって、道徳的価値について段階的に学びを深められる工夫がなされている。 (4) 役割演技やリフレーミングなどの体験的な活動が複数回取り入れられ、多面的・多角的に考えられる工夫がなされている。 (5) 全ての教材の配色・マークと内容項目とが関連付けられており、道徳的価値について考えられるよう配慮がなされている。 (6) 性別、人種等の偏りがないようにイラストを配置したり、話者のイラストを会話文の上に配置したりする工夫がなされている。
<p>3 学習指導への配慮</p> <p>○単元・題材の配列</p> <p>○内容の扱い</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性・個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価</p> </div>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 学年に応じ、巻頭に配置される「さあ、道徳を始めよう！」の漫画と、「道徳科の学習とは、」の紹介、第1教材とが関連付き、内容項目も含め発達段階に応じた配慮がなされている。 (2) 全学年で複数の教材とコラムを組み合わせた単元や、充実した補助教材をもとに、柔軟なカリキュラム編成が可能となる工夫がなされている。 (3) 漫画や端末でのやり取りをイラストにした教材や意識調査を掲載したコラムを基に、「情報モラルと情報活用力」について、多面的・多角的に考えられる工夫がなされている。 (4) 道徳的諸問題が生じた場面や、物語教材での登場人物の感情が変化した場面の挿絵を掲載することで学習指導に生かせるものになっている。 (5) 巻末に、学期ごとと1年間を振り返るページが設置されており、道徳性に関わる自己の成長の様子を確認したり、把握したりできるよう工夫がなされている。
<p>4 全体的な特色</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教材を基に問題意識をもつ問い、自分事として多面的・多角的に考える問い、自分の生き方について考える問いの三つの問いによって、道徳的価値への考えを深める工夫がなされている。 ・ 「いじめ問題」「多様な人々や自然環境との共生」「生命の尊重」について複数の教材を連続して扱ったり、コラム「ひろば」と組み合わせたりして問題の本質に迫れるよう工夫がなされている。

<div style="text-align: center;">発行者名</div> 採択基準	光村図書（きみがいちばんひかるとき）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人間の弱さに焦点を当てた問いにより、共感的に教材と向き合いながら道徳的価値に迫れるよう「てびき」が設けられている。 ・ 「見方を変えて」という主発問と切り口を変えた問いが設けられ、多面的・多角的に捉えることができるよう工夫がなされている。 ・ 学習のてびきに、主発問とは別に「つなげよう」が設けられており、自分との関わりで考えを深め、広げていく工夫がなされている。
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性 〔 本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等 〕	<ol style="list-style-type: none"> (1) 1年間の学びが、生徒の成長に寄り添うようなテーマをもったユニットで構成されているため、学習の見通しがもちやすい。 (2) 第2教材で「問う」という観点で整理した学び方が示されており、自ら問いをもち追求することを喚起する工夫がなされている。 (3) 「チャレンジ」では、問いを立てて話し合ったり、役割演技をしたりして考えを深めていく活動が紹介されている。 (4) 話し合うことを学習の中心に据え、読み取りに偏ることがないように、言語活動重視や漫画形式等の多様な教材で構成されている。 (5) 各教材、本文は縦組み、「てびき」は横組みを基本としており、一目で区別することができるよう配慮がなされている。 (6) 4内容項目が、色の識別が容易なハートマークで示されている。また、他教科等との関連がわかるマークが教材末に示されている。
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い 〔 「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価 〕	<ol style="list-style-type: none"> (1) 「てびき」に設けられている「つなげよう」では、学習した内容と関連付けて考えられるような呼びかけが示されており、深い学びにつながるよう工夫がなされている。 (2) 題材の他に、問い合うこと、友と協働的に答えを求めることの楽しさを味わえるような教材が配置されており、教師が創意工夫して授業をつくることのできるような工夫がなされている。 (3) いじめ問題を様々な内容項目から考える教材とコラムを一つのユニットとして設け、序盤に配置している。コラムでは、社会情緒的能力の育成にアプローチできるような工夫がなされている。 (4) 読み物教材において、中心的な発問の場面、道徳的な問題が起こっている場面に必ず挿絵が配されており、教材内容の理解を助け、思考の時間を確保できるような配慮がなされている。 (5) シーズンごとの学びの振り返り、自分の考えを書き留めるページが設けられており、1年間の学びを1枚で見渡すことで自己の学びの深まりに気付くことができるよう配慮がなされている。
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> ・ 何を学ぶのかを意識し、振り返りを蓄積することで、主体的に学べるよう工夫がなされている。また、「問う」に着目した様々な活動を設け、自分事として考えられるよう工夫がなされている。 ・ 各学年で、様々な人権に関わる三つの教材とコラムを組み合わせ、3年間を通して人権に対する感覚を養うことができるよう教材の配列がなされている。

<p style="text-align: center;">発行者名</p> <p>採択基準</p>	<p>日本文教出版（中学道徳 あすを生きる）</p>
<p>1 教科の目標からの配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全ての教材の冒頭で学びのキーワードが示され、生徒が自分との関わりで主体的に取り組めるよう配慮がなされている。 ・ 教材末に「学びを深めよう」を設定して、話合いや役割演技などから多面的・多角的に考えられるよう配慮がなされている。 ・ 別冊の道徳ノートを用いて、自分の考えをまとめることで、自己の学びを振り返ることができるよう配慮がなされている。
<p>2 生徒の学習活動への配慮</p> <p>○内容の程度</p> <p>○学習活動への誘意性</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等</p> </div>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 発展的に学習が進められるよう各学年のテーマを設定し、学校行事や日常生活との連携に配慮がなされている。 (2) 先人や今を生きる人物の多様な生き方に触れることができる教材で、学習意欲を喚起できるような工夫がなされている。 (3) 教材のねらいに迫る発問と自分に生かすための発問が示され、生徒が主体的かつ柔軟に学習できるよう工夫がなされている。 (4) 教材末に問題解決的・体験的な学習に適した「学びを深めよう」を設定し、納得解を得られるよう配慮がなされている。 (5) 教材は右ページはじまりの見開き構成で、一文の途中でページをめくることがないように見開き単位の配慮がなされている。 (6) ユニバーサルデザインフォントを使用すると共に、性別、人種等に偏りが無い内容やさし絵を用いて多様性に配慮がなされている。
<p>3 学習指導への配慮</p> <p>○単元・題材の配列</p> <p>○内容の扱い</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価</p> </div>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 生徒が発展的に学習できるよう各学年のテーマを設定し、いじめやよりよい社会に関わる内容に関する教材が適切な時期に配列されている。 (2) 学校行事の実施時期との関係を考慮して教材が配列されているとともに、地域・家庭生活とのつながりでも授業が展開できるよう配慮がなされている。 (3) いじめを自分事として捉えるために、いじめと向き合うための直接的・間接的な教材とコラムを複数提示することで、多面的・多角的に考えられるよう配慮がなされている。 (4) さし絵で登場人物の表情が鮮明に描かれるとともに、登場人物をページ下の小窓に抜き取ってピックアップすることで生徒の内容理解を助けることができるよう工夫がなされている。 (5) 1教材1ページの道徳ノート(別冊)で、生徒が自分自身の学びの積み重ねを実感できるとともに、教師が生徒の学習状況や道徳性に関わる成長の様子を把握できるよう工夫がなされている。
<p>4 全体的な特色</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「いじめ」と「よりよい社会」について重点的かつ継続的に学習できるように、直接的・間接的な教材とコラムを連続して配置し、知識の深化とスキルの習得を目指せるよう工夫がなされている。 ・ 全教材で、「気付く」、「考える議論する深める」、「見つめる生かす」の3ステップで1時間の見通しをもって学べるよう、工夫がなされている。

<div style="text-align: right;">発行者名</div> 採択基準	Gakken（新版 中学生の道徳 明日への扉）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・ 巻頭に多様な学び方や考えを深めるステップが示されており、生徒が自己を見つめられるよう配慮がなされている。 ・ 現代的課題や他教科等とつながる教材が配置されており、生徒が多面的・多角的に考えられるよう配慮がなされている。 ・ 様々な人々の生き方が取り上げられており、生徒が自己の生き方について考えを深められるよう配慮がなされている。
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性 本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等	<ol style="list-style-type: none"> (1) 内容項目に沿った教材が配置されており、特に様々な内容項目で命について考えることができるよう配慮がなされている。 (2) 主題名を記載せず、印象的な言葉「キーワード」を配置することで、生徒の問いが生まれるよう工夫がなされている。 (3) 考えを深めて対話を促す特設ページ「深めよう」が配置されており、主体的・対話的に学習できるよう工夫がなされている。 (4) 教材の内容項目に即した「クローズアップ」が配置されており、生徒が多面的・多角的に学べるよう配慮がなされている。 (5) 文字情報を補うイラストや図表とともにメモ欄が配置されており、内容や問題を捉えやすくなるよう配慮がなされている。 (6) AB判の紙面で写真やイラストなどが大きく配置されており、全ての生徒が学習を進められるよう配慮がなされている。
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い 「知識及び技能」の習得のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関係性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価	<ol style="list-style-type: none"> (1) 行事や季節などに合わせたストーリー性のある教材が、生徒の発達の段階に応じ二つの発問や問いかけとともに適切に配列されている。 (2) 特設ページ「深めよう」で教材の登場人物を演じる活動やSNSの使い方を議論する活動が示されており、創意工夫して適切な指導計画が作成できるよう配慮がなされている。 (3) 異なる内容項目の教材を「持続可能な世界のために」など大きなテーマで連続して扱う「ユニット学習」が各学年に3回設定されており、多面的・多角的に考えるための工夫がなされている。 (4) 読み物教材の登場人物がイラストを用いて紹介されたり、実在する人物に写真と解説が添えられたりしており、生徒の学習指導に生かせるものになっている。 (5) 今の自分について書き留めるスペースや「学びの記録」「学びのメモ」を活用することで、生徒自身が学びを可視化するとともに、教師が生徒の成長を把握できるよう工夫がなされている。
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の多様な発言を集められるように、主題名を教材の前には書かずに巻末にまとめ、問題意識を高める「キーワード」を配置することで、生徒が主体的に考えられるよう工夫がなされている。 ・ 最重点テーマを「いのち」として、「生命の尊厳」を中心に様々な内容項目で命の尊さについて考えることで、人権を重んじ、多様性を受け入れることにつながる教材が配列されている。

<div style="text-align: right;">発行者名</div> <div style="text-align: center;">採択基準</div>	<div style="text-align: center;">あかつき教育図書（中学生の道徳）</div>
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全ての教材に、自分ならどうするかを考える「自分との対話」が終末に配置されており、自分や道徳的価値を問い直す構成である。 ・ 様々な視点から考えられるよう、複数の理由を考えたり、別の立場から思いを想像したりする発問が配置されている。 ・ 「よりよく生きる喜び」を重点項目の一つとし、多くの教材が配置され様々な生き方について考えられるよう配慮がなされている。
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等 </div>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 最初の教材は、生徒の発達段階に合ったテーマが設定されており、1年間の学びの指針になっている。 (2) 漫画や発達段階に合った題材等、多様な教材が精選されており、生徒の興味・関心を喚起するものとなっている。 (3) 「主体的な学びを促す発問」か「対話的な学びを促す発問」が設定され、ねらいに沿って考えを深める工夫がなされている。 (4) 「マイ・プラス」の発問では、体験的な学習等が盛り込まれ、重要テーマは対話を通して思考を深められる工夫がなされている。 (5) 文字情報をはじめ、デザインの違い等で必要な情報が読み取れるよう配慮がなされ、学生かばんの重さに配慮したB5判である。 (6) 教材冒頭のマークはシンプルで色の識別が容易なものであり、内容項目の視点のみを表す要点的なものとなっている。
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価 </div>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 「生命尊重」と「いじめ防止」に関連した四つの重点項目については全学年で各項目を年間3時間計12時間配当されており、「生命尊重」「いじめ問題」との関連性を考慮して構成されている。 (2) 各学年、生徒の身近な題材を取り上げた「Thinking」というコラムページが教材の後に10本程設けられており、教材での学びからさらに視野を広げられるような工夫がなされている。 (3) 様々な現代的な課題に対して学習を深められるように、SDGsの視点で考える教材を盛り込み、情報モラル等四つのテーマに沿った教材をそれぞれ連続的に配置する工夫がなされている。 (4) 文章だけでなく、関係性を構造的に図示したり、道徳的価値を表す行動や様子、四季や伝統文化の具体を示す写真を配置したりすることで、問題が捉えやすくなる配慮がなされている。 (5) 学期や1年間の自分自身の授業の取組を振り返ることのできるシートが巻末に設けられており、生徒が自分自身の道徳性に係る成長の様子に気付くことができるような工夫がなされている。
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「考えの道すじ」として考える要点が示され、「自己を見つめて考える」か「いろいろな見方で考える」のどちらかと、「考えを深める」の二つの発問に絞り込み、ねらいに迫る工夫がなされている。 ・ 現代的課題「いじめ問題」「情報モラル」「キャリア」「共に生きる社会」について2～4の複数の教材を連続で扱い、重点的に学習できるよう工夫がなされている。

<p style="text-align: center;">発行者名</p> <p>採択基準</p>	<p>日本教科書（生き方から学ぶ）</p>
<p>1 教科の目標からの配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各教材で、発問に「考えよう」「深めよう」と示し、道徳的価値に迫る学習活動が端的に分かるよう工夫がなされている。 ・ 郷土教材、国際社会に関わる教材をはじめ、哲学的な教材を配置し、多面的・多角的に考えられるよう工夫がなされている。 ・ 巻末の「ウェルビーイングカード」により、自他の価値観への理解を多面的・多角的に深められるよう工夫がなされている。
<p>2 生徒の学習活動への配慮</p> <p>○内容の程度</p> <p>○学習活動への誘意性</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等</p>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 啓発週間や学年行事に対応した題材で編集され、興味・関心や発達段階に応じて考えながら読むための配慮がなされている。 (2) 題材の最初に漫画教材による導入や二次元コードが配置され、題材への興味・関心を喚起する工夫がなされている。 (3) 巻末のカードの活用により、生徒自身がどのような価値を大切にしているのかをより深く理解するための工夫がなされている。 (4) 哲学的な教材や現代的な課題に関わる教材を配置することで、多面的・多角的に考えて話し合えるように配慮がなされている。 (5) 写真資料、さし絵、動画、漫画教材を適所に挿入した紙面構成で、教材の視覚化による内容理解を促す工夫がなされている。 (6) 紙面の広いA B判の下段に難しい言葉についての説明があり、内容を把握できるような配慮がなされている。
<p>3 学習指導への配慮</p> <p>○単元・題材の配列</p> <p>○内容の扱い</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 3年間を通して共通の登場人物を描く教材が掲載され、発達段階に対応したテーマを扱うことで、登場人物へのより深い共感や自己との対比をねらった配列への工夫がなされている。 (2) 教材の冒頭に主題名を記載しないことで、生徒に学習内容に対して「何について学ぶのか」の先入観をもたせず、生徒の実態に応じた価値観で指導計画が作成できるよう配慮がなされている。 (3) 多様性や情報モラル、SDGsを扱った教材を複数配置することで、新しい技術や多様な価値観に由来する現代的な課題を多面的・多角的に考えられるよう配慮がなされている。 (4) 教材の内容や特徴に合わせて、さし絵や写真を使い分けたり、図表によるデータを示したりすることで、より効果的に情景や心情、客観的な情報が伝わるよう工夫がなされている。 (5) 「ウェルビーイングカード」の活用により、自分自身や周囲の人々が大切に考える価値観について理解を深め、これまで気付かなかった価値観の発見を促すための工夫がなされている。
<p>4 全体的な特色</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「ウェルビーイングカード」を活用し、一人一人の考えが可視化することで、自己や他者のウェルビーイングを尊重し、協働して社会を創る力を身に付けるための工夫がなされている。 ・ 学習指導要領の内容項目順に教材が配列されており、学校行事や啓発週間に応じて教材の順番を入れ替えた指導計画が作成できるよう配慮がなされている。